

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200770
法人名	医療法人社団 飯盛会
事業所名	グループホーム いいもり
所在地 (電話番号)	福岡市西区飯盛664-1 (電話) 092-811-9080
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年6月26日

【情報提供票より】(平成21年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,333 円			

(4) 利用者の概要(6月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	倉光病院、倉光歯科、すぎの眼科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

深い緑が溢れる福岡市西区飯盛山の裾野、田園の中にたたずむ2階建てのホームは、その建物の周囲もたくさんの花や植栽に溢れている。ホーム入り口では職員の手によるぬくもりが伝わる木のネームプレートと、アンティークな鉢の中で泳ぐ金魚が出迎えてくれる。66歳から今秋101歳を迎えられる利用者18名の穏やかな表情、調査員を迎えてくれた笑顔、明るい会話から、利用者と職員による“家族”の一人ひとりが尊重され大切にされていることが伝わる。管理者の思いにより、ホーム入居時からの個人の写真が職員の手により1人ずつファイルされ、大切に保管されていることから寄り添う介護が実践されていることが感じられる、あたたかなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題としてあった、理念の中に周辺地域との交流を深め、信頼関係を築くための理念ということについて職員で話し合い、新たな理念を作り上げ掲げている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者より、外部評価の意義が伝えられ、職員各自が、それぞれ自己評価を行い評価票を作成し、管理者が集約している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回行われる運営推進会議は、民生委員・地域包括支援センター・市役所職員・家族・地域の方の参加を得て行われており、ホームの状況や外部評価の調査結果の報告、見直しや取り組みについての話し合いを行っている。ご家族からの意見を基にサービスの向上に向けての実践がなされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族会や運営推進会議などの際に、家族と管理者が直接話し合える機会を設けている。面会時や必要に応じて電話で話し合いを行うようにしている。また、家族が海外に居住している利用者に関しては、定期的に家族より電話があり、その都度状況報告がなされ、不安の解消に努めている。苦情に関しては母体法人である病院に設置している意見箱を利用してもらい、気付きや要望を伝えてもらって、運営に反映できるように働きかけている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域夏祭りや、由緒ある飯盛神社の流鏝馬、子ども相撲大会や年に1回行われる地域のふれあいサロンに出かけている。お正月伝統の獅子舞はホームから依頼して利用者の前で披露してもらっている。地域の除草作業には利用者、職員で参加している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の結果を踏まえ、職員で話し合い、周辺地域との交流を深め、信頼を築くための新たな理念を作り上げ掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に唱和すると共に毎月の担当者会議の際に、理念に基づいてのケアの実践ができているか確認がなされている。理念の実践に向けて、職員間で作るユニット間共通の月間目標があり、毎月末に次月の目標を話し合いで決定し、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は、ホームが病院の併設であることから、地元の人が気軽に立ちよりにくいことを感じており、地域の夏祭りへの参加や、由緒ある飯盛神社の流鏝馬、子ども相撲大会や、年に1回行われる地域のふれあいサロンに出かけている。お正月の伝統の獅子舞はホーム側から依頼して、利用者の前で披露してもらっている。地域の除草作業には利用者、職員で参加するなど、積極的に地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月例会議、職員会議にて、昨年の評価結果を基に見直しを行い、自由に意見を出し合い、最終的にはユニットリーダーがまとめ、その後全職員で改善に向けての取り組みを行っている。今回の自己評価は各職員がそれぞれ記入し、管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員・地域包括支援センター・市役所職員・家族・地域の方も参加し会議を開催している。ホームの状況報告や評価のへ取り組みについて話し合いをしサービスの向上に活かしている。運営推進会議で出された家族の意見により、毎日の出勤者の顔写真とその日の勤務を掲示している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、2ヶ月に1回の運営推進会議への参加をしてもらい、必要に応じて電話での問い合わせ等に応じてもらっている。ホーム側からは市立老人福祉センター職員の研修に、管理者が講師として関わるなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政主催の研修会に積極的に参加すると共に、母体法人の人権擁護委員としてホームからも業務として関わり、人権や権利擁護に関する研修等に参加している。職員会議の際に伝達講習を行い、研修資料は保管し随時活用できるようにしている。家族に対しては要望があれば随時説明をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要に応じて電話で報告している。季節ごとに行われる定期行事の案内や、請求書送付の際に近況報告も合わせて行っている。家族が海外に居住している利用者に関しては、定期的に家族より電話がありその都度近況報告がなされている。職員の異動等については、問われれば答えるようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	花見や敬老会を開催する際に合わせて行う家族会と、運営推進会議の時もあわせ、管理者と直接話し合える機会を設けている。また、母体病院に設置している意見箱を利用していただき、気づきや要望を伝えてもらい、運営に反映できるように働きかけている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的にユニット間での行き来があり、ホーム全体での馴染みの関係ができており、職員の異動等による影響を最小限に防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関して、性別や年齢による制限などはなく、職員それぞれに応じた資格取得の際のサポートがなされ、研修などへの参加が積極的にできるように体制が整えられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	母体法人の人権擁護委員会があり、月1回の会議を持ち教育への取り組みをすると共に、半期ごとひとつの標語を作り、それを目標として啓発活動に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営母体、病院での年間計画に基づいての研修があり、ホーム職員も参加している。県社協介護実習センターの介護講座や介護支援専門員受験などの情報提供をすると共に、働きながらトレーニングすることを勧め支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム職員と認知症介護実践者研修受講時の交流や、互いのグループホームを視察・研修するなど2、3ヶ月に1回の割合で交流しサービスの向上につなげられるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用するにあたり、まずは家族と共に事前に見学することを勧めている。他の利用者や職員とお茶を一緒にして馴染みの関係を作る時間を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であることを念頭に置き、日常、極普通に行われている調理時の野菜の切り方や縫い物や編み物などにおいて、その経験からくる言葉や行動から教えてもらい、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスの開始前には本人や家族等と面談を行い、その思いや暮らし方の希望・意向を把握している。サービス開始後も継続的に聞き取りを行なっているが、思いや意向を上手く伝えられない利用者は、その表情や仕草を観察し、家族等の意向を踏まえて本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、利用者ごとに担当の職員がおり、ケアマネージャーと担当職員が中心になって作成している。受診の際に医師の意見を伺い、面会される家族等と話し合い、利用者がより良く暮らすための本人本意の計画を作成している。家族等の面会が少ない場合でも、電話で近況を報告したうえで意見を求めている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は3ヶ月から6ヶ月を目安としている。毎日、ユニット内職員会議を行っており、介護計画を見直すべき変化が起こっていないか確認・検討をしている。見直しを行う場合には、本人・家族等や医師などの必要な関係者から意見を求め、現状に即した本人本意の計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況や要望に応じ、受診やリハビリテーションの付き添い、入院中の洗濯、入院中の試験外泊の受け入れなどを行っている。受診先が遠方であったり、時間を要する場合には、本人や家族等の同意を得て有料でのサービスを行う場合もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等が希望される医療機関を選ぶことができ、本人に必要な頻度で受診を援助している。受診の際には、職員が付き添うようにしており、家族等が付き添う際には、必要な情報を記載した書面を預け、医師との情報交換が円滑に行われるようにしている。受診の結果は、電話で家族等への報告を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族等が希望されれば、ホームで終末期を迎えることができる。そのために必要な援助の手順がマニュアル化されている。現在、1名の利用者から終末期を迎える希望があり、家族等および医師と話し合い、同意書を交わしたうえで準備を進めている。今後も繰り返し話し合い、関係者全員が方針を共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内に個人情報保護委員会が設置されており、ホーム内では委員となっている職員を中心に研修を行っている。記録等の個人情報は、事務所内の鍵のついた書庫に保管・管理されている。職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴・散歩・買い物など、一人ひとりのこれまでの生活習慣やその日の気分を大事にして支援している。喫煙や飲酒についても、一人ひとりとの約束の範囲内で可能であり、入浴後に1杯のビールを飲むことが楽しみになっている利用者もいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員1名が利用者と一緒にテーブルに着き、一緒に食事を摂り、いろいろな話題でにぎやかな食事風景だった。準備や後片付けも一人ひとりの能力に応じて行われ、自分で下膳している男性もいる。特に、メニューが餃子やお好み焼き、焼肉などの際は、準備し・食べ・片付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同時に3人ぐらいが入れる大きな浴槽と家庭用サイズの浴槽があり、一人ひとりの身体の状態や気分によって選択できる。1日の中で入浴可能な時間帯は限られているが、その中でも一人ひとりにあったタイミングで入浴していただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の役割としては、ホームで飼っている犬の散歩や日めくりカレンダーをめくること、今日の一言を書いてもらったりしている。楽しみごと気晴らしとしては、月1回の民謡サークルや季節ごとの行事、ドライブなどを支援している。春には、土筆の袴とりや、竹の子など山菜の下ごしらえの作業がにぎやかに行われる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	調査時も徒歩や車椅子介助での散歩の様子が見られている。外出の際は利用者の体調や希望に応じて個別に行われている。希望を上手く伝えられない利用者は、表情や仕草から読み取り、出かけられるように支援している。月に1回は外食が企画され、年に2回は家族の参加も募っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害は十分承知しており、ホーム開設後から試行錯誤を繰り返している。現在は、家族等とも相談したうえで、安全確保のために、ユニットごとの玄関を常時施錠しており、居室の窓も身体が出ない程度にしか開かないようにしている。その分、利用者の外出したいという気持ちを見逃さないように努め、日常的な外出を支援している。	○	通常、自宅で生活している場合、玄関への施錠は日常的に行われていますが、自分の意思で自分で開錠できることが前提にあります。そのことを踏まえ、日中は自由な出入りができる環境作りに取り組み、一人ひとりの外出に対する習慣や傾向を把握し、短時間の開錠からでも試みることを望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人に防災委員会が設置されており、隣設の病院と一体となったマニュアルが作成されている。年2回の防災訓練のうち1回は病院と合同で消防署も参加し、1回はホームだけで行っている。運営推進会議において地域への協力要請が行われている。職員は通報手順・避難場所・経路を熟知できている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量は毎食ごとに記録されており、体重の増減と比較できるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カウンターキッチンのあるリビングには、食事を摂るテーブルとイス、くつろげるソファが置かれ、思い思いの場所で過ごすことができる。柔らかく調光された館内は、季節の花がいたるところに飾られ、利用者の手芸作品にあふれ、暖かみのある雰囲気が作られている。浴室は広く、壁には木材が使われており、大きな窓から畑などの風景が望める。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入り口の引き戸には、障子の小窓がついており、居室の暖かみを引き立てている。ベッドと整理ダンスは備え付けの物が用意されているが、これまでに使い慣れた家具や調度品、パッチワークのタペストリーや編み物作品など趣味の物が持ち込まれ、一人ひとりその人らしい空間が作られている。家庭用ゲーム機を持ち込まれている利用者もおられた。</p>		